

ニンジン栽培

岡崎市島坂保育園（愛知県岡崎市）

[5歳児]

5月：土作りをし、ペットボトルにニンジンの種まきをする。毎日水まきをし、発芽を喜ぶ。

7月：ニンジンの発育の様子を見ながら、葉がどんなふうになってきたか話題にする。

葉が茂ってきた様子を「ジャングルみたい」と例えたり、4・5個の種から大きくなってきたニンジンの葉を見て、「ギョウギョウづめになってる」と見えない土の中を想像しながら、「だんだん大きくなって膨らんで、ペットボトルが壊れちゃう」「土から出てきちゃう」など少しおもしろがって言う。〔ペットボトルの中では何本かのニンジンが大きく育ちにくいのではないが、ということは感覚としてわかる部分もあると思われる〕



【間引きの意味を知る】“まびき”という言葉を用い、ペットボトルに1本だけのニンジンを残すことを話す。どうして間引きをするのか問いかけると、「一つの方が栄養がたくさん取れるから」と子どもたちが答える。

【ニンジンの間引きを行う】ペットボトルの中から一番大きいものを残して、引き抜く。

保育者の話を聞き、1人がやるのを皆で見る。片手で、土を押さえるようにして、真上に引っ張り「すーっとぬけたよ」と引き抜いたニンジンを見せる。「難しい」と言う子は、保育者が一緒に手を添えると自分で抜くことができた。〔土が湿っていたこともあり、予想よりも慎重に途中で折れないように気をつけながら抜くことができた〕



【ニンジンはどこのことか？野菜としてどの部分を食べているのか？考える・気付く】

保育者が、ニンジンの方を指して「ここはなに？」と尋ねると、「根っこ」と言い、指す位置をだんだん上の方にしていくと「ニンジン」と言う。「ここは根っこでこっちの方はニンジンなんだね、何が違うの？」と尋ねると「色が違う、ニンジンは色が濃いもん」と言う。トマトはどのように実がなるかを確認し、何度か手に持って見せているニンジンの“根っこ”と“ニンジン”の部分を確認し「ニンジンってどこ食べるのかな？」と問いかける。



2・3人は「根っこを食べる」と言い始めるが、他の子は根っこがニンジンであるという意識には結びついていない様子である。〔同じ根の部分であるのに、どこからニンジンでどこから根であるという発想が子どもらしくて、とても面白かった。子どもなりにニンジンと根の違いを感じており（微妙な色の違い、太さの違い）そこには、根は食べるものではないという気持ちが働いているのではないかと思った〕

【ニンジンの葉っぱを食べる】ニンジンを湯がいて、葉っぱを炒めてご飯に混ぜて料理をする。「ニンジンの味がする」と言い、ほとんどの子がおいしそうに食べる。

《読み取り》間引きということの話しを聞いて実際に行ったが、今後、それぞれのペットボトルに1本ずつになったニンジンがどんどん大きくなっていくのを見ることで、その意味が実感としてわかっていくのではないだろうか。同じ野菜でも、花の後の実を食べる物、根を食べる物、葉を食べる物と、色々あるということを目前で生育の様子を見、食することで実感できるという事はとても貴重な経験となっていこう。又、その違いを難しく考えるのではなく、自然の不思議さとして面白いと感じ取る事ができたらと思う。

8月：ニンジンの葉にいる虫を発見する。以前に飼育した「キアゲハの幼虫」と分かる

以前パセリの葉にいたキアゲハの幼虫と模様が同じだと気付く、図鑑で調べて納得する。クラスで飼育することにする。日ごと体が大きくなる幼虫を見て驚く。また、突然、幼虫が黄色い角を出したので「触ったら怒って、なんか黄色いのが出てきた」とびっくりして友達に教える。〔普通の時には全く見えない物が突然出て来たことにとっても驚いたようだ〕虫が好きな子どもは、直接触っては「かわいい」と嬉しそうに眺めていた。

【ニンジンを収穫し、生長の様子を見る】茎の元の方を持ち、上手く葉っぱを引っ張って抜く。

〔前回での経験がある為か、上手に抜く姿が見られる〕「こんなに大きくなった」と間引きの時よりも大きくなっていたニンジンに歓声を上げる子がいる。なかなか抜けなくて一生懸命に土を払い落とし「出てきた！」と嬉しそうに見せる子がいる。「先生、ペットボトルの下の土のどこまで伸びてた！」とびっくりした表情で知らせに来る子もいた。収穫できたニンジンを大事そうにきれいに並べ、それぞれの大きさを比べて見ている。

【漬け物にしたニンジンを食べる】ニンジンが苦手でも「甘い」と言い喜んで食べたり、おやつにニンジンが入っていることに気付く「自分の育てたニンジンだ」と思ったりする。

みどころ

ニンジン栽培の中でも、「間引き」「幼虫とのかかわり」「収穫」の場面に視点を当てた事例です。ペットボトルで栽培することで、密集している様子から「こんなには育てられないだろう」と気付く「1つのペットボトルの中に1本残し育てよう」ということが分かり、幼児なりにこれからの生長を期待して栽培をします。間引きをすることで、生長の様子や「ニンジンは何？どこ？」といった素朴な疑問をもち、よく観察したり考えたりして気付いたことを手がかりにして、より興味深くニンジンにかかわる姿になります。虫との出会いにより、全てを収穫しないで虫の餌として残すという考えをもちます。食べることで、栽培や収穫の喜びは心に残る経験になります。自ら心を動かして気付いたことは、植物や生き物とかかわる貴重な知識や手がかりになっています。